

栃木放送平成 25 年度第 10 回 3 月期定例番組審議会議事録

1.開催の日時 平成 26 年 3 月 11 日（火）午前 11 時

2.開催の場所 栃木放送本社会議室

3.委員の出席 委員総数 9 名

出席委員 6 名

欠席委員 3 名

出席委員名

委 員 長

増 田 仲 夫

委 員

鈴 木 正 好

委 員

小 島 俊 一

委 員

太 田 照 男

委 員

岩 村 由 紀 乃

委 員

石 崎 均

局側出席者氏名

代表取締役社長

吉 澤 文 夫

常務取締役

竹 澤 一 夫

報道制作局長

高 瀬 一 也

報道制作局次長

山 科 哲 郎

4 議 題

（１）「IT's きたかん 防災スペシャル」について

（２）その他

5 議事内容

(1) 「IT's きたかん 防災スペシャル」について

試聴番組：平成 26 年 3 月 9 日（日）放送

IT's きたかん 防災スペシャルのダイジェストを試聴。

議題説明：報道制作局次長 山科哲郎が番組概要について説明。
次に審議に入る。

各委員からは、

- 東日本大震災から学んだラジオの役割、ラジオに求められる情報は何なのかなど、ラジオとしての反省を出せたらよかった。
- 茨城放送との相互協定の内容は伝えたのだと思うが、当時を振り返るだけでなく、将来に向けてどうするのが大切。未来志向の番組にしたほうがよかった。
- 中継先のスーパーでは、こういう時にどうすればいいのかを伝えてほしかった。大震災を風化させないためには事後の話が必要だと思う。
- 欲しいときに欲しい情報があるといいと思う。ツイッターなどの情報は早いけど、インターネットはいざというときに繋がらない。そういう時こそ、ラジオの精度の高い情報が欲しい。行政的な情報も必要だと思う。東海村で何かあった時にどうするかなどの骨太の部分がほしかった。
- 中継に関しては共感できなかった。防災スペシャルというわりには淡々として伝わらなかった。
- 災害の時にはラジオということをもっと印象付けてもいいのではないかな。
- ラジオは全世代が対象になるので、最後はラジオに期待したい。などの意見が出された。
当社としては今後の番組作りに取り組んでいきたい旨を説明した。

(2) その他

春の改編について概要を説明した後、平成 26 年度第 1 回 4 月期の審議会を平成 26 年 4 月 24 日（木）に開催することを決めて閉会した。